

用水季報

令和3年 新春号
発行元：美しい用水の会
連絡先 090-1993-5903
<http://bunji-yosui.org/>



用水通水状況：10月22～30日、11月6～18日、12月15日～16日、12月17～24日の4回、
合計32日間砂川用水は止水しました。止水原因は裏面をご覧ください。

砂川用水美化活動 令和2年10月～12月実績

「定期作業」として10月3回、11月4回、12月1回。「気づき清掃」と名付けた会員各自がごみ詰まりや草の繁茂などに気づいた時に行う不定期な作業として10月3回、11月9回、12月4回と合計24回の作業となりました。この季節は落ち葉との戦いで、並木町公民館脇用水のごみ止め柵部分に流れつく枯葉の撤去が、毎年のこととはいえ大仕事でした。

砂川用水美化活動と課題 砂川用水の美化活動は平成24年から本格的に始まり、用水路のゴミ除去、護岸の草刈りなど行っていました。当初は、砂川用水全体で13カ所のゴミ撤去や護岸整備を行っていましたが、328号線の工事進捗とごみ撤去ができたことにより、現在上の地図に示した9カ所の美化活動を行っています。昨年は定期的作業を63回、枯葉やごみ、護岸の植生繁茂を気づいた時に整備する「気づき清掃」を127回実施、そのうち43回は会員が並木町公園を毎週水曜日に整備したものです。こうした美化活動により、当初は止水、ごみ詰まりの絶えなかった



並木公民館北での美化活動



ヤマモモ公園脇用水路の春

国分寺市域内砂川用水の止水は皆無になりました。また本来、親水施設である並木公民館北側用水は河床に泥がたまり、いわゆる‘沼’状態になっていました。そこで、測量を行い、‘沼アゲ’を行い、‘沼’にならないように砂利を敷き水深を浅くし、下流に泥だまりなどを造る改修を行いました。さらに、ヤマモモ公園脇、並木町公園脇の用水護岸を整備し季節の花を咲かせ左の写真のように美しい色彩の空間を創り出しました。しかし、上記通水状況のように度々止水するので、止水期間をより少なくする対策が必要です。また護岸の植生も一層安らぎの空間として維持管理することが必要です。こうした課題解決を様々な角度で検証していくことが必要ですので、皆さんの活動への参加を切望しています。

令和3年美化活動について 令和3年は、新型コロナ感染防止策を十分とりながら、次のような方針で砂川用水がさらに皆さんの身近な用水となるよう、美化活動を展開していきますので、ご支援お願い申し上げます。

- ・「定期作業」としては、毎月第1月曜、第2、4土曜日に活動を行い、天候により実施できない場合は、極力代替え日を設定、実施することとします。実施場所は現在の9カ所に加え、重要史跡恋ヶ窪村分水の美化活動を組み入れたうえで、用水の状態を判断し、活動場所を毎回市と協議しながら決定します。
- ・用水に隣接する並木町公園、並木公民館親水施設、ヤマモモ公園を重点整備する個所として美化活動を行います。
- ・「気づき清掃」は従来通り会員各自の判断で、必要な個所の整備を行います。

止水原因について

砂川用水維持管理については、市と締結している協定書には、「常時通水を目指す」と明記されています。しかし、右の表の通り

令和2年の止水状況と原因						
止水理由	立川ごみ取水口	立川ごみ詰まり	立川護岸整備	国分寺護岸整備	小平護岸整備	止水日計
止水日数	7	14	23	17	13	74

昨年を通じて観察したかぎりでは、年間20%ほどの74日間の止水となりました。内訳は、3市の護岸整備による止水が53日間、立川市域でのごみ詰まりによる止水21日間となっています。護岸整備による止水は致し方ないとしてもゴミ詰まりによる止水を減らす必要があります。ゴミ詰まりの個所は、写真1の玉川上水取水口と写真2の砂川用水流入口から200mほど下流の写真3の暗渠入り口です。特に写真3の部分は上部にまでゴミが詰まり増水した（写真赤線まで増水）ことが明確となっています。落ち葉やゴミが土管入り口に詰まることで、水は土管上部のわずかな隙間から流れることになるのです。こうした止水しそうな状況を早期に把握し、ゴミ詰まりを除去するには、市・緑と建築課と立川市の協力が必須となっています。



1. 松中橋の砂川用水取水口



2. 砂川用水流入口



3. 流入口下流の暗渠入り口

止水する回数を少なくする対策を考えなければならないことが、課題のひとつとなりました。

美化活動拠点のご紹介：立川市若葉町境

国分寺市域を流れる用水は現在砂川用水と呼ばれていますが、開削されたのは1728年（享保14年）で南野中新田分水と呼ばれていたようです。今年で293年流れ続けているのです。当時この用水は玉川上水から直接引水していましたが、その後上水の取り入れ口の場所を変え、1870年（明治3）に立川の砂川用水から引水している現在の形になりました。国分寺市域砂川用水（以下砂川用水）は前掲の写真1から玉川上水の水を引いて松中橋下を横断し、写真2のように砂川用水に流れ込み、不動橋を経由し、玉川上水と並行して五日市街道南を流れ、残堀川を掛樋で渡り、五日市街道北側に流れを変え、歩道下を暗渠で若葉町まで流れて来ています。国分寺市域では南側のみが流れ、北側は完全に止水し水路跡として残されています。暗渠内は右下写真のようになっています。赤線が水の流れる方向で、五日市街道北側歩道下から流れ込み、五日市街道を横断し南側に流れて行きます。この写真の手前になりますが、

砂川用水南側最上流部



砂川用水北側最上流部

ここで北側の流れは止まっています。美化活動は右岸・左岸の草の成長との戦いで、毎回草刈機を使用し流れの奥まで見通せるように心がけています。この地の美化活動は五日市街道を歩く方への景観維持を常に意識し、平成2年に7回実施しました。南側流入口あたりに、多摩川から流されてきたと思われるザリガニや小魚が見られるので、これが活動のひとつの楽しみでもあるのです。



若葉町境暗渠内

令和3年の砂川用水美化活動予定

本年は、用水沿いの3公園（並木町公園、並木公民館親水施設、ヤマモモ公園と用水路）の美化活動に一層力を入れ、皆さんの憩える空間を維持するよう努力してまいります。実施場所は用水の状態によって変わりますので、詳細は「美しい用水の会」ホームページ（http://bunji-yosui.org/top_page/img/calendar.pdf）をご覧ください。

参加者募集

砂川用水を美しく保全し、子供たちが水に親しめる空間を創り出しましょう。種を蒔き、花を植え、いつもきれいに流れる用水路を子どもたちのために創り出しましょう。美しい用水の会は、会員一人ひとりが国分寺の用水に関係する色々な活動、歴史の勉強、草花生育、イベント企画なども自由に行い、会員相互で各自の活動を支援する団体です。

年会費は¥500。用水に関心のある方のご参加を心待ちしております。

ご連絡は090-1993-5903まで、会の詳細は URL（<http://bunji-yosui.org/>）をご覧ください。